

二〇一〇年三月七日(日) 聖日礼拝第一〜四

『無上の喜び』

出エジプト記二七章九〜二一節

説教者：藤林いざや師、今井直喜師

(新共同訳)

27:9 次に、幕屋を囲む庭を造りなさい。庭の南側に面して、その側のために亜麻のより糸で織った長さ百アンマの幔幕(まんまく)を張る。10 そのために、二十本の柱と二十個の台座を青銅で作し、柱の鉤(かぎ)と桁(けた)は銀で作る。11 同じようにして、北側に長さ百アンマの幔幕(まんまく)を張り、二十本の柱と二十個の台座を青銅で、柱の鉤(かぎ)と桁(けた)は銀で作る。12 庭の西側には幅五十アンマの幔幕(まんまく)を張り、十本の柱と十個の台座を作る。13 庭の東側の幅も五十アンマとし、14 十五アンマの幔幕(まんまく)を三本の柱と三個の台座によつて右に、15 同じく、十五アンマの幔幕(まんまく)を三本の柱と三個の台座によつて左に張る。

16 庭の入り口には、青、紫、緋色の毛糸、および亜麻のより糸で織ったつづれ織の二十アンマの幕を張り、四本の柱と四個の台座を作る。17 庭を囲むすべての柱は銀の桁(けた)でつなぎ合わせる。柱の鉤(かぎ)は銀、台座は青銅で作る。18 この庭の奥行きは百アンマ、間口は五十アンマである。幔幕(まんまく)は高さ五アンマで、亜麻のより糸で織る。台座は青銅で作る。19 また、幕屋で祭儀に用いる祭具、幕屋や庭の杭(くい)などすべては青銅で作る。

20 あなたはイスラエルの人々に命じて、オリーブを砕いて取った純粹の油を、ともし火に用いるために持って来させ、常夜灯(じょうやとう)にともさせなさい。21 常夜灯は臨在の幕屋にある掟の箱を隔てる垂れ幕の手前に置き、アロンとその

子らが、主の御前に、夕暮れから夜明けまで守る。これはイスラエルの人々にとって、代々にわたって守るべき不変の定めである。

(聖書講解)

A・幕屋の庭は、二二・五m四方の( ) 方形二つに分かれ、正方形を区切る線を引くと、幕屋の前面がその線上にあたる。  
B・南北四五m、西二二・五m張られた幔幕で遮られており、宿営からは幕屋の天辺は見えるが、( ) で起こっていることは隠されていた。

C・《鉤と桁》幔幕を( ) の鉤に掛け、また柱と柱の間を結ぶ桁(ロープ、パイプ、針金)にカーテンのように吊るした。

D・日出ずる( ) には入り口が設けられ、左右に六・七五mの幅の幕を張り、入り口の九mの幕には、刺繍が施される。

E・《オリーブを砕いて取った純粹な油》は、手作りの( ) 級の油で、不純物が少ないため、より明るく、煙が少ない。

F・幕屋はここで《( ) の幕屋》と呼ばれ、これは、イスラエルの部族が用いた古い名称であったと思われる。

A 正 B 庭 C 柱 D 東 E 最高 F 臨在

メッセージポイント

**一回一回の礼拝こそ、主の大（ ）  
である。**

参照）出エジプト記27:6 次に、幕屋を囲む庭を造りなさい。……

参照）詩編84:3 主の庭を慕って、わたしの魂は絶え入り  
そうです。命の神に向かって、わたしの身も心も叫びます。  
「あなたを慕って過ごす一日は千日にまさる恵みです。主  
に逆らう者の天幕で長らえるよりは、わたしの神の家の門  
口に立っているのを選びます。」

**祈りの動力源は、砕かれた心からにじ  
み出る感謝や（ ）である。**

参照）20 あなたはイスラエルの人々に命じて、オリーブを  
砕いて取った純粋の油をともし火に用いるために持って来  
させ、常夜灯にともさせなさい。